

5.4 生物・生態系

5.4.1 工事の完了後

(1) 陸上植物の状況

ア 調査事項

調査事項は、表5.4-1に示すとおりとします。

表5.4-1 陸上植物における調査事項

区分	調査事項
a 予測した事項	植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
b 予測条件の状況	① 車道の両側の植樹帯（高木・低木）の設置状況 ② 改変部の「よこやまの道」の代替路の設置状況
c 環境保全のための措置の実施状況	<p>【予測に反映した措置】</p> <ul style="list-style-type: none">予測地域は、計画道路の南側に広がる緑の分布の中では、北端の小規模な範囲で、計画道路による改変が周辺の緑との連続性等へ及ぼす影響は小さく限定的です。さらに、車道の両側に植樹帯（高木・低木）を設置することにより、計画道路の縦断方向の緑のネットワークの保全に努めます。改変部の「よこやまの道」の代替路について、道幅は、動物の移動経路を現状程度に維持するため、道幅を現在の「よこやまの道」と同程度の道幅とし、舗装についてはアスファルト・コンクリート等に一様に舗装することを避け、土系舗装とします。また、生息環境への配慮として、周辺環境を参考にし、照明や長い側溝、極端な勾配の構造物の設置等を避けるように努めます。 <p>【予測に反映しなかった措置】</p> <ul style="list-style-type: none">工事の施行に当たっては、計画道路に隣接する土地に生育する植物の注目される種等を踏み荒らしたり、誤って抜き取ったりしないように、工事関係者へ周知徹底します。

イ 調査地域

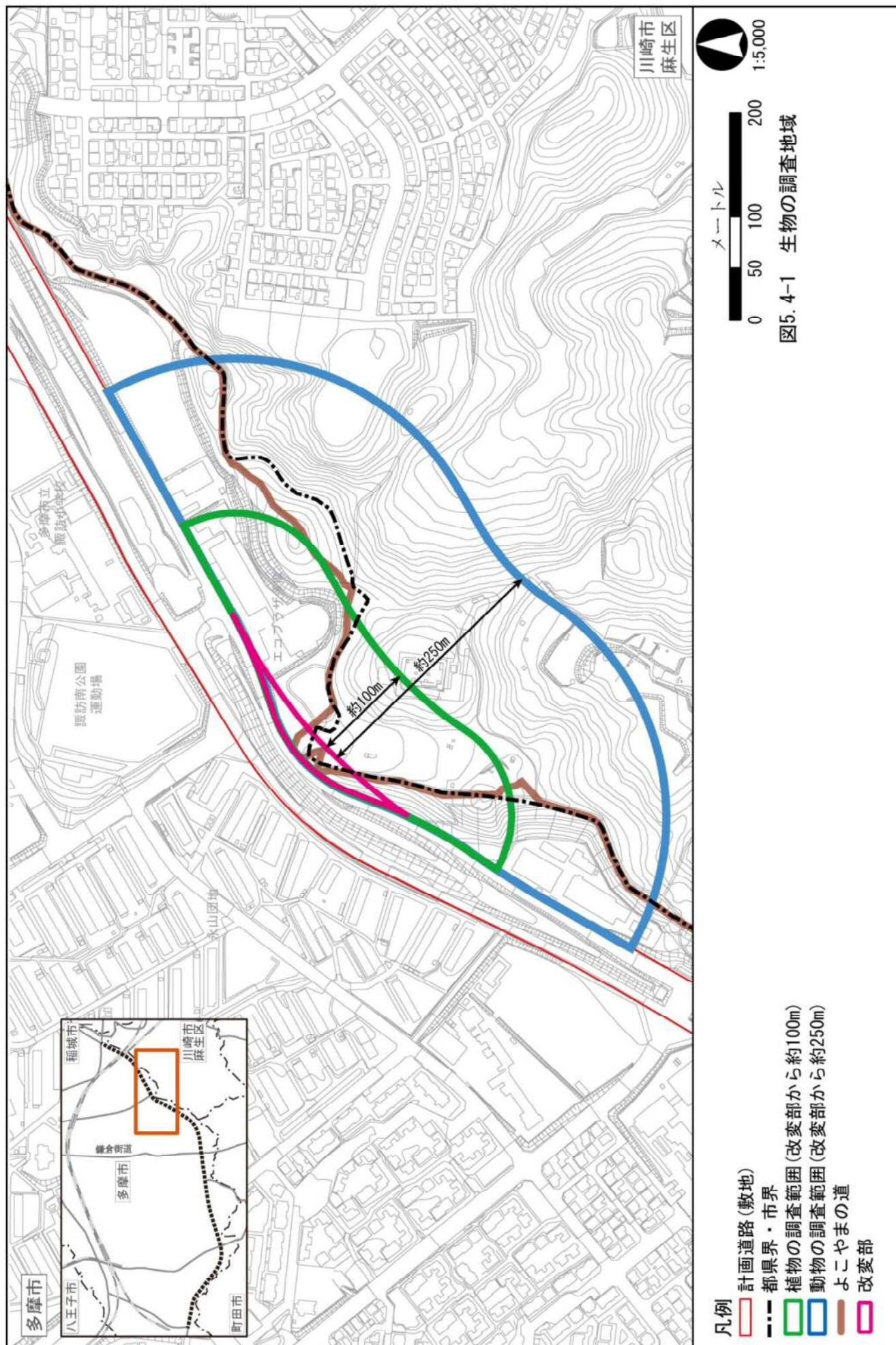
調査地域は、計画道路の諏訪・永山区間の一部において現在の道路敷地外での拡幅工事による改変部周辺約100mの範囲とします。

ウ 調査手法

調査手法は、表5.4-2に示すとおりとします。

表5.4-2 陸上植物における調査手法

区分	調査手法	
調査時点 及び 調査期間	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部の工事の完了後一定期間を経た1年間とし、植物相は早春季、春季、夏季、秋季の4回、植物群落は秋季の1回とします。
	b 予測条件の状況	工事の完了後、随時とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	工事の完了後、随時とします。
調査地点	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部から100mの範囲とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
調査方法	a 予測した事項	i 植物相 • 任意観察（任意踏査による種の確認） • 注目される種（個体数及び生育状況等の確認） • 関連資料の整理等 ii 植物群落 • 現地踏査 • 群落組成調査（植物社会学的方法） • 注目される植物群落（生育状況等の確認） • 関連資料の整理等
	b 予測条件の状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。



(2) 陸上動物の状況

ア 調査事項

調査事項は、表5.4-3に示すとおりとします。

表5.4-3 陸上動物における調査事項

区分	調査事項
a 予測した事項	動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
b 予測条件の状況	① 車道の両側の植樹帯（高木・低木）の設置状況 ② 改変部の「よこやまの道」の代替路の設置状況
c 環境保全のための措置の実施状況	<p>【予測に反映した措置】</p> <ul style="list-style-type: none">予測地域は、計画道路の南側に広がる緑の分布の中では、北端の小規模な範囲で、計画道路による改変が周辺の緑との連続性等へ及ぼす影響は小さく限定的です。さらに、車道の両側に植樹帯(高木・低木)を設置することにより、計画道路の縦断方向の緑のネットワークの保全に努めます。改変部の「よこやまの道」の代替路について、道幅は、動物の移動経路を現状程度に維持するため、道幅を現在の「よこやまの道」と同程度の道幅とし、舗装についてはアスファルト・コンクリート等に一様に舗装することを避け、土系舗装とします。また、生息環境への配慮として、周辺環境を参考にし、照明や長い側溝、極端な勾配の構造物の設置等を避けるように努めます。 <p>【予測に反映しなかった措置】</p> <ul style="list-style-type: none">工事の施行に当たっては、計画道路に隣接する土地に生育する植物の注目される種等を踏み荒らしたり、誤って抜き取ったりしないように、工事関係者へ周知徹底します。

イ 調査地域

調査地域は、計画道路の諏訪・永山区間の一部において現在の道路敷地外での拡幅工事による改変部周辺約250mの範囲とします。

ウ 調査手法

調査手法は、表 5.4-4 に示すとおりとします。

表5.4-4 陸上動物における調査手法

区分	調査手法	
調査時点 及び 調査期間	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部の工事の完了後一定期間を経た1年間とし、哺乳類及び鳥類は4季、は虫類・両生類及び昆虫類は、春季、夏季、秋季の3季とします。
	b 予測条件の状況	工事の完了後、随時とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	工事の完了後、随時とします。
調査地点	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部から250mの範囲とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
調査方法	a 予測した事項	<p>i 動物相及び動物群集の多様性</p> <p>現地調査及び関連資料の整理による方法とし、現地調査方法は以下に示すとおりとします。</p> <p>哺乳類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドサイン調査 ・トラップ調査 ・夜間調査 <p>鳥類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラインセンサス ・任意観察 <p>は虫類・両生類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察 <p>昆虫類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意観察 ・ライトトラップ調査 ・ベイトトラップ調査 <p>ii 注目される種</p> <p>哺乳類、鳥類、は虫類・両生類、昆虫類</p> <p>現地調査及び関連資料の整理による方法とします。</p>
	b 予測条件の状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。

(3) 生息（育）環境

ア 調査事項

調査事項は、表5.4-5に示すとおりとします。

表5.4-5 生息（育）環境における調査事項

区分	調査事項
a 予測した事項	生息(育)環境の変化の内容及びその程度
b 予測条件の状況	計画道路の改変部の改変状況
c 環境保全のための措置の実施状況	<p>【予測に反映した措置】</p> <ul style="list-style-type: none">予測地域は、計画道路の南側に広がる緑の分布の中では、北端の小規模な範囲で、計画道路による改変が周辺の緑との連続性等へ及ぼす影響は小さく限定的です。さらに、車道の両側に植樹帯(高木・低木)を設置することにより、計画道路の縦断方向の緑のネットワークの保全に努めます。改変部の「よこやまの道」の代替路について、道幅は、動物の移動経路を現状程度に維持するため、道幅を現在の「よこやまの道」と同程度の道幅とし、舗装についてはアスファルト・コンクリート等に一様に舗装することを避け、土系舗装とします。また、生息環境への配慮として、周辺環境を参考にし、照明や長い側溝、極端な勾配の構造物の設置等を避けるように努めます。 <p>【予測に反映しなかった措置】</p> <ul style="list-style-type: none">工事の施行に当たっては、計画道路に隣接する土地に生育する植物の注目される種等を踏み荒らしたり、誤って抜き取ったりしないように、工事関係者へ周知徹底します。

イ 調査地域

調査地域は、計画道路の諏訪・永山区間の一部において現在の道路敷地外での拡幅工事による改変部周辺約100mの範囲とします。

ウ 調査手法

調査手法は、表5.4-6に示すとおりとします。

表5.4-6 生息（育）環境における調査手法

区分	調査手法	
調査時点 及び 調査期間	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部の工事の完了後一定期間を経た時点とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
調査地点	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部から100mの範囲とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
調査方法	a 予測した事項	現地調査及び関連資料の整理による方法とします。
	b 予測条件の状況	関連資料の整理による方法とします。 i 地形等の状況 ii 風向及び風速等の気象の状況 iii 大気汚染等の状況 iv 植物群落の状況
	c 環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。

(4) 緑の量

ア 調査事項

調査事項は、表5.4-7に示すとおりとします。

表5.4-7 緑の量における調査事項

区分	調査事項
a 予測した事項	緑の量の変化の内容及びその程度
b 予測条件の状況	計画道路の改変部の改変状況
c 環境保全のための措置の実施状況	<p>【予測に反映した措置】</p> <ul style="list-style-type: none">予測地域は、計画道路の南側に広がる緑の分布の中では、北端の小規模な範囲で、計画道路による改変が周辺の緑との連続性等へ及ぼす影響は小さく限定的です。さらに、車道の両側に植樹帯(高木・低木)を設置することにより、計画道路の縦断方向の緑のネットワークの保全に努めます。改変部の「よこやまの道」の代替路について、道幅は、動物の移動経路を現状程度に維持するため、道幅を現在の「よこやまの道」と同程度の道幅とし、舗装についてはアスファルト・コンクリート等に一様に舗装することを避け、土系舗装とします。また、生息環境への配慮として、周辺環境を参考にし、照明や長い側溝、極端な勾配の構造物の設置等を避けるように努めます。 <p>【予測に反映しなかった措置】</p> <ul style="list-style-type: none">工事の施行に当たっては、計画道路に隣接する土地に生育する植物の注目される種等を踏み荒らしたり、誤って抜き取ったりしないように、工事関係者へ周知徹底します。

イ 調査地域

調査地域は、計画道路の諏訪・永山区間の一部において現在の道路敷地外での拡幅工事による改変部周辺約100mの範囲とします。

ウ 調査手法

調査手法は、表5.4-8に示すとおりとします。

表5.4-8 緑の量における調査手法

区分		調査手法
調査時点 及び 調査期間	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部の工事の完了後一定期間を経た時点とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
調査地点	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部から100mの範囲とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
調査方法	a 予測した事項	現地確認及び関連資料の整理により、緑被率、緑の体積を算出する方法とします。
	b 予測条件の状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とします。

(5) 生態系

ア 調査事項

調査事項は、表5.4-9に示すとおりとします。

表5.4-9 生態系における調査事項

区分	調査事項
a 予測した事項	生態系の変化の内容及びその程度
b 予測条件の状況	計画道路の改変部の改変状況
c 環境保全のための措置の実施状況	<p>【予測に反映した措置】</p> <ul style="list-style-type: none">予測地域は、計画道路の南側に広がる緑の分布の中では、北端の小規模な範囲で、計画道路による改変が周辺の緑との連続性等へ及ぼす影響は小さく限定的です。さらに、車道の両側に植樹帯(高木・低木)を設置することにより、計画道路の縦断方向の緑のネットワークの保全に努めます。改変部の「よこやまの道」の代替路について、道幅は、動物の移動経路を現状程度に維持するため、道幅を現在の「よこやまの道」と同程度の道幅とし、舗装についてはアスファルト・コンクリート等に一様に舗装することを避け、土系舗装とします。また、生息環境への配慮として、周辺環境を参考にし、照明や長い側溝、極端な勾配の構造物の設置等を避けるように努めます。 <p>【予測に反映しなかった措置】</p> <ul style="list-style-type: none">工事の施行に当たっては、計画道路に隣接する土地に生育する植物の注目される種等を踏み荒らしたり、誤って抜き取ったりしないように、工事関係者へ周知徹底します。

イ 調査地域

調査地域は、計画道路の諏訪・永山区間の一部において現在の道路敷地外での拡幅工事による改変部周辺約250mの範囲とします。

ウ 調査手法

調査手法は、表5.4-10に示すとおりとします。

表5.4-10 生態系における調査手法

区分		調査手法
調査時点 及び 調査期間	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部の工事の完了後一定期間を経た時点とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一時点とします。
調査地点	a 予測した事項	図5.4-1に示す諏訪・永山区間の改変部から250mの範囲とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一地点及びその周辺の計画道路とします。
調査方法	a 予測した事項	「5.4.1 (1) 陸上植物の状況」及び「5.4.1 (2) 陸上動物の状況」における現地調査結果及び関連資料の整理による方法とします。
	b 予測条件の状況	「a 予測した事項」と同一方法とします。
	c 環境保全のための措置の実施状況	「a 予測した事項」と同一方法とします。